



二葉幼稚園

# 2021年 園のたより 10月



## 10月の聖句

あなたがたのなが てんにかきしるされていることを  
よろこびなさい。

ルカ：10章20節

## 10月のさんびか

むぎのたね

ようじさんびか 41



### はずませ

9月は緊急事態宣言下、分散登園にご協力頂きありがとうございました。少しは安心して登園できたご家庭もあれば、いつも一緒にいる友達と会えないので、我が子の友達関係を心配された方もいらっしゃったことでしょう。二葉は各学年35名。小学校での1クラス分。この時期に分散を取り入れ、半数になったことで、飛躍的に発言・発話が増えた子ども達、今までも同じクラスなのに関わりがなかったクラスメートと新たな友達関係を築いた子ども達もいます。ちょっぴり不安のドキドキが、いつしか心はずむワクワクへと変わり、門を出る時に互いを呼び合う姿には、新しい関係性が見えました。年長児にとっては、半年後に入学を控え「一步踏み出す勇気」、案ずるより産むが易しの経験にもなったことと思います。意外な一面を互いに知ることができ、先生達と子ども達との関わりもいつにも増してじっくりゆったり濃密な時となりました。会えない友達への「会いたい」「一緒に遊びたい」恋しい思いも抱えつつ、久しぶりに全園児が揃った日には、うれしさ爆発！笑顔満開！

会えないけれど繋がる心、見えないけれど感じる心・・・ふたばこ全員が心はずませ、手と手を“ぎゅっ”と繋いで、そんな願いから今年のふたばこフェスタの看板は全園児の手を型どり作った平和の象徴「五輪マーク」。一人ひとりの違い、多様性、互いの存在をより大切にしたい。誰もが「生まれてきて良かった！」と思えるような居場所を皆で創りたい。そのために、何が必要なのか。弱さを持つ私達だからこそ、悩みつつ失敗も繰り返しながら、それでも尚、力を合わせて歩みたい。

晩夏の台所。半開きのビニール袋の中で忘れ去られていたさつま芋が発芽。10cmほどの茎にハートの葉っぱが3枚。「おや?」と思いつつ数日が過ぎ、新たな芽が。袋を外し「植えよかな」とまた数日。「あら?」ビニールの中で僅かな水分と光を蓄え「生きよう」と芽を出した芋は、袋を外した事で環境が変わり、青々しいハートの葉は黄色に。すぐ水につけダイニング照明の真下へ。(リボベジ再燃)「枯れちゃうかな」ハラハラしながら見守ると・・・見事に元気回復！体中から根を生やし、光に向かい真っ直ぐ伸びた10本ほどの茎はもはや30cm！ハートの葉は生い茂り、憩の卓上芋盆栽に。

この様子！まるで新入、進級当時の子ども達。ある環境で芽を出し、時にそろりと、時に弾けて、安定して育ち始めたと思いきや、環境の変化で一瞬育ちが止まったように、元気がなくなったようにも見える・・・。ところが信じて見守っていると、やがて新しい環境の中で、自分を取り戻し、また安心して伸びやかに育ち始める。

『何もないところから子どもの人間形成をやっていくのではないのです。すでに「与えられているもの」が、子どもの中に存在しているのです。種の中には「生命力」が宿っていて、種を成長させ、実らせることができるのです。このことを「信じられる」人は幸いです。子どもを見つめ直す時、子どもは私達に、その生命力と可能性を開いて見せてくれるでしょう。種から芽、芽から穂、穂から実り、という順序を飛び越えることはできません。子どもの成長も同様です。幼な子の時代には幼な子の時代に十分味わわなければならないものがあります。(中略)子どもの「成長」の旅は「愛する」ことにおいて、最後の「実り」に達します。皆さんの愛する子ども達が良き「実り」を得ることが出来ますように。』(岡本不二夫/キリスト教保育誌1986年10月号>引用 同誌2021年10月号より抜粋)

実りの秋、心に響いた言葉を大切な皆様へ 多くの出会いに感謝して 【園長】